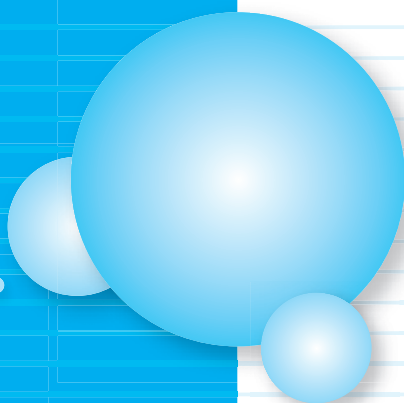


# Prius

## 取扱説明書

### -パソコン応用編-

**HITACHI**  
Inspire the Next



# Prius One

- マニュアルはよく読み、保管してください。
- 製品を使用する前に、安全上の説明をよく読み、十分理解してください。
  - このマニュアルは、いつでも参照できる状態にしておいてください。

## 重要なお知らせ

- 本書の内容の一部または全部を、無断で転載あるいは引用することを禁止します。
- 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の記述内容について万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
- 本製品を運用した結果については前項にかかわらず責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

## パソコンの信頼性について

ご購入いただきましたパソコンは、家庭用、あるいは、一般事務用を意図して設計・製作されています。生命、財産に著しく影響のある高信頼性を要求される用途への使用は避けてください。このような使用に対する万一の事故に対し、弊社は一切責任を負いません。

家庭用一般事務用パソコンが不適当な、高信頼性を必要とする用途例  
・ 化学プラント制御、医療機器制御、緊急連絡制御など

### 規制、対策などについて

#### ●電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

#### ●電源の瞬時電圧低下対策について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合を生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお勧めします。(社団法人 電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格に基づく表示)。

#### ●高調波電流規格: JIS C 61000-3-2 適合品

JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性—第 3—2 部: 限度値—高調波電流発生限度値 (1 相当あたりの入力電流が 20A 以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

#### ●ENERGY STAR® について


当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

『国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品はコンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリ、複写機、スキャナ、複合機のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク(ロゴ)は参加各国の間で統一されています。』

#### ●輸出規制について

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国の輸出管理関連法などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。この装置に付属する周辺機器やソフトウェアも同じ扱いになります。なお、ご不明な場合は、弊社「お問い合わせ先」にお問い合わせください。

#### ●音楽 CD 再生について

ディスクレーベル面に  マークの入ったものなど JIS 規格に合致したディスクをご使用下さい。規格外 CD を使用された場合には、再生の保証はいたしかねます。再生できた場合であっても、音質は保証いたしかねます。

なお、規格外 CD を再生した場合、色々な不具合が発生することがあります。

●液晶ディスプレイのドット抜けについて

表示するパターンによっては、微妙な輝点（指定の色と関係なく光る）や黒点（指定の色が表示できない）が見えたり、罫線や文字の一部が欠けることがあります。ただし、輝点や黒点の数については、弊社の規格によって制限しています。ご使用中、著しく増加することはありません（社団法人電子情報技術産業協会のパソコン用液晶ディスプレイのドット抜けに関する定量的表記ガイドラインに基づく表示）。

詳細は Prius ホームページ内の仕様表をご覧ください。

→ <http://priushitachi.co.jp>

●電波について（ワイヤレスキーボード・ワイヤレスマウス）

本製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。次項に注意してください。

- ・ 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことをご確認ください。
- ・ 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更して、電波干渉をしないようにしてください。
- ・ その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合などがおきたときは、弊社のお問い合わせ先にご連絡ください。

使用周波数帯域	2.4GHz
変調方式	DS-SS 方式、CSMA/CA 方式
想定干渉距離	30m
周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能

●PC グリーンラベル制度について



本製品は、JEITA「PC グリーンラベル制度」の審査基準（2006 年度版）を満たしています。

詳細は、Web サイトをご覧ください。

→ <http://www.pc3r.jp>

●J-Moss グリーンマーク表示について










本製品は、資源有効利用促進法、及び JIS C 0950 が規定するグリーンマーク表示の基準に適合しています。

適合状況は、下記 URL をご覧ください。

→ <http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/flora/policy/environment/index.html>

## マニュアルの表記について

	これは、安全注意シンボルです。人への危害を引き起こす潜在的な危険に注意を喚起するために用います。起こりうる傷害または死を回避するためにこのシンボルのあとに続く安全に関するメッセージに従ってください。
	これは、死亡または重大な傷害を引き起こすかもしれない潜在的な危険の存在を示すのに用います。
	これは、軽度の傷害あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険を示すのに用います。
	これは装置の重大な損傷、または周囲の財物の損害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
	重要事項や使用上の制限事項を示します。
	パソコンを活用するためのヒントやアドバイス、パソコンの用語を解説します。
	参照先を示します。
CD/DVD ドライブ	DVD スーパーマルチドライブなどの光学式ディスクドライブを表記します。
HDD	ハードディスクドライブを表記します。
FDD	フロッピーディスクドライブを表記します。
FD	フロッピーディスクを表記します。
Windows、 Windows Vista	Microsoft® Windows Vista™ Home Premium または、 Microsoft® Windows Vista™ Home Basic を表記します。
17 型モデル	17 型液晶ディスプレイが搭載されているモデルを表記します。
20.1 型モデル	20.1 型液晶ディスプレイが搭載されているモデルを表記します。
Office Personal 2007	Microsoft® Office Personal 2007 を表記します。
地デジ	地上デジタルテレビ放送やチューナーボードを表記します。
地アナ	地上アナログテレビ放送やチューナーボードを表記します。

- ・ マニュアルで使用している画面およびイラストは一例です。機種によっては、異なる場合があります。説明の都合で、画面のアイコンやイラストのケーブルなど、省略している場合があります。
- ・ URL、お問い合わせ先、画面などは、マニュアル制作時点のものです。

# もくじ

もくじ.....	5
----------	---

## 1 章 応用操作

ディスプレイを調整する .....	8
ディスプレイの表示を変える .....	8
[個人設定] の開き方 .....	8
画面の解像度、色の設定 .....	8
通知領域のアイコンを使って調整する .....	9
[Prius 映像モード切替] アイコンで調整する .....	9
リモコンを使って調整する .....	10
ワイド切換について .....	10
映像モードについて .....	11
音量を調整する .....	12
Windows で調整する .....	12
音量を調整する .....	12
録音レベルを調整する .....	13
通知領域の [音量] アイコンで調整する .....	13
[音量] アイコンで調整する .....	13
通知領域に [音量] アイコンが表示されていないときは .....	14
キーボードのキーを使って調整する .....	15
リモコンを使って調整する .....	15
ワンタッチキーを設定する .....	16
設定の方法 .....	16
表示設定 .....	18
キーボードの電池容量の確認 .....	19
キーボードの電池容量を確認する .....	19

## 2 章 消費電力を節約する

節電機能の種類 .....	22
節電機能を設定する .....	23
節電機能を使わないようにするとき .....	23
自動で節電する .....	23
時間を設定する .....	23
自動で節電機能を使わないようにする .....	24
すぐに節電する .....	25

Windows で節電する .....	25
電源スイッチで節電する .....	26

節電状態から復帰する .....	28
------------------	----

## 3章 パソコンを拡張する

周辺機器接続時に必要な設定 .....	30
USB 機器を接続する.....	31
取り付け手順 .....	31
取り外し手順 .....	32
USB プリンターを使用する方法 .....	33
プリンタードライバーの削除方法 .....	33
使用するプリンターの選択 .....	34
IEEE1394 機器を接続する .....	36
LAN を接続する .....	37
メモリーカードを使う .....	38
取り付け手順 .....	38
取り外し手順 .....	39
ヘッドホン、マイクを接続する .....	41
接続方法 .....	41
光デジタルオーディオ機器を接続する .....	42
その他の周辺機器を接続する .....	43
さくいん.....	44

# 1

## 1 章 応用操作

この章では、パソコンの設定を工夫し、さらに使いやすくする方法について説明します。

- ≫ ・ディスプレイを調整する (P.8)
- ≫ ・音量を調整する (P.12)
- ≫ ・ワンタッチキーを設定する (P.16)
- ≫ ・キーボードの電池容量の確認 (P.19)

# ディスプレイを調整する

ここでは、ディスプレイの表示の設定を変更する方法を説明します。

## ディスプレイの表示を変える

ディスプレイの表示を細かく設定することで、見やすく目の疲れにくい画面表示にできます。設定は [個人設定] で行います。

- ・ [個人設定] の開き方
- ・ 画面の解像度、色の設定

### ■ [個人設定] の開き方

#### 1 [コントロールパネル] - [デスクトップのカスタマイズ] をクリック

[デスクトップのカスタマイズ] が表示されます。

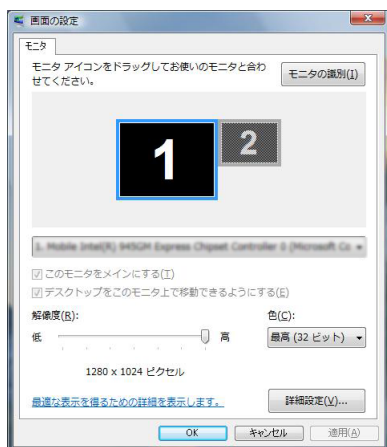
#### 2 [個人設定] をクリック

[個人設定] が表示されます。

### ■ 画面の解像度、色の設定

**重要** ● 設定はアプリケーションを終了させてから行ってください。実行中に行くと、正しく動作しないことがあります。

#### 1 [個人設定] の [画面の設定] で、画面の解像度や色を設定する。次の表の組み合わせに従い、[適用] ボタン、[OK] ボタンをクリック





## ● 17 型モデルの場合

画面の領域	色 * 1
800 × 600	中 (16 ビット)
	最高 (32 ビット)
1024 × 768	中 (16 ビット)
	最高 (32 ビット)
1280 × 1024 * 2	中 (16 ビット)
	最高 (32 ビット) * 2

## ● 20.1 型モデルの場合

画面の領域	色 * 1
800 × 600	中 (16 ビット)
	最高 (32 ビット)
1024 × 768	中 (16 ビット)
	最高 (32 ビット)
1680 × 1050 * 2	中 (16 ビット)
	最高 (32 ビット) * 2

\* 1 中 (16 ビット) は 65536 色、最高 (32 ビット) は 17 型モデルで約 1619 万色、20.1 型モデルで約 1677 万色です。

\* 2 工場出荷時は、この標準値に設定されています。

**重要** ● 上記の画面領域 (表示解像度) 以外の値は、選択しないでください。画面が表示されない場合があります。

## 2 以降、表示されるメッセージに従って操作する

画面の表示モードが設定されます。

- 重要** ● 画面の表示で問題が発生した場合は、[個人設定] の [詳細設定] ボタンをクリックし、[トラブルシューティング] タブの [ハードウェア アクセラレータ] を左から 2 つ目の目盛りに設定してください。
- アプリケーションによっては、スクロールしたりウィンドウの移行を行ったりしたときに表示の一部が欠けたり乱れたりすることがあります。この時は、ウィンドウをクリックするなどして、再表示してください。
  - Windows が使用するビデオメモリーの容量は、使用状況に応じて可変します。自動で割り当てられるため、固定や変更はできません。

## 通知領域のアイコンを使って調整する

画面右下の通知領域に表示されている [Prius 映像モード切替] アイコンで、映像モードを調整することができます。

**参照** → 通知領域について → [パソコン使用編] 1 章の「デスクトップとは」

### ■ [Prius 映像モード切替] アイコンで調整する

#### 1 通知領域の [Prius 映像モード切替] アイコンをクリック

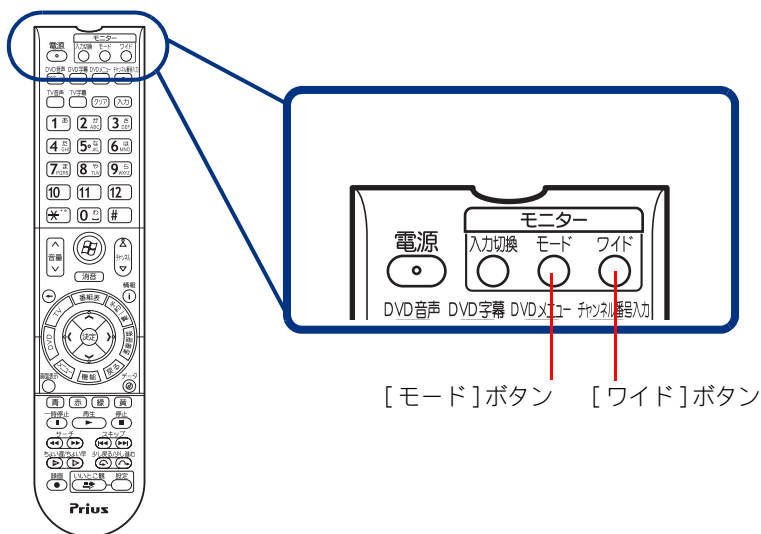
映像モードが切り替わります。

**参照** → 映像モードについて → [映像モードについて]

## リモコンを使って調整する

リモコンの[モード]ボタン、[ワイド]ボタンを押して、画面を調整できます。

**※ヒント** ●機種によってはリモコンは添付されません。詳しくは、同梱品一覧表で確認してください。



## ■ワイド切換について

[ワイド]ボタンを押すごとに地上デジタル放送の全画面や外部入力(ビデオ入力)画面の表示が切り替わります。

### 17型モデルの場合

項目	画面	調整 / 設定内容
ワイド	ノーマル → ズーム ↑ フル ←	拡大設定を切り替える

#### ●ワイド設定について

項目	地上デジタル放送の全画面 / 外部入力(ビデオ入力)画面
ノーマル	映像を中央に表示する
ズーム	4:3の映像を拡大して表示する
フル	映像を画面いっぱいに広げて表示する

**▲重要** ●放送や入力信号によっては、選べないワイドモードがあります。

**※ヒント** ●パソコン画面については、800 × 600、1024 × 768のときのみ、ノーマル(4:3拡大)、フル(全画面)、リアル(センタリング)の3モードが選択可能になります。

## 20.1 型モデルの場合

項目	画面	調整 / 設定内容
ワイド		拡大設定を切り換える

### ●ワイド設定について

項目	地上デジタル放送の全画面／外部入力(ビデオ入力)画面
ノーマル	映像を中央に表示する
16:9	ハイビジョン映像やスクイーズ映像(横方向を圧縮して記録された映像)を横方向いっぱいまで拡大する。上端と下端に黒帯が表示される
ズーム	ピクチャサイズ/シネスコサイズの映画など上下に黒帯の入った映像を水平・垂直方向に画面いっぱいまで拡大して表示する
フル	4:3の映像を画面いっぱいまで広げて表示する
スムーズ	4:3の映像を画面中央はほとんど拡大せず、画面中央から水平方向に順々に拡大率を上げ、画面いっぱいに表示する

**重要** ● 放送や入力信号によっては、選べないワイドモードがあります。

**※ヒント** ● パソコン画面については、800×600、1024×768のときのみ、ノーマル(4:3拡大)、フル(全画面)、スムーズ(パノラマ全画面)、リアル(センタリング)の4モードが選択可能になります。

## 映像モードについて

通知領域の[Prius映像モード切替]アイコンやリモコンの[モード]ボタンを押すごとに画面表示が切り替わります。

項目	画面	調整 / 設定内容
モード		ピクチャーエンハンス機能の設定を切り替える

### ●モードについて

項目	ピクチャーエンハンス機能
ダイナミック	鮮明でコントラストのある映像に調整する 明るい部屋で、メリハリのある画像を楽しむ時に適したモード
シネマ	明るさを抑え、落ち着いた映像に調整する 映画などの長時間の視聴に最適なモード
ナチュラル	通常のテレビ番組などを楽しむのに適したモード
ノーマル	ピクチャーエンハンス機能は働きません オリジナルの映像を楽しむのに適したモード

# 音量を調整する

Windows やリモコン、キーボードのキーを使うと、音量を調整できます。音量を調節するには、次の方法があります。

- ・ Windows で調整する
- ・ 通知領域の [音量] アイコンで調整する
- ・ キーボードのキーを使って調整する
- ・ リモコンを使って調整する

**※ヒント** ● 本体のスピーカの調整は、前面の音量調節ボリュームを使用してください。外部スピーカを接続している場合は、外部スピーカのマニュアルもあわせてご参照ください。

**▲重要** ● 音量を上げすぎると、スピーカからの音が音割れする場合があります。

## Windows で調整する

Windows の [再生] タブや [録音] タブを使うと、CD プレーヤーの音量や録音レベルも調整できます。

### ■ 音量を調整する

#### 1 [コントロールパネル] – [ハードウェアとサウンド] をクリック

[ハードウェアとサウンド] が開きます。

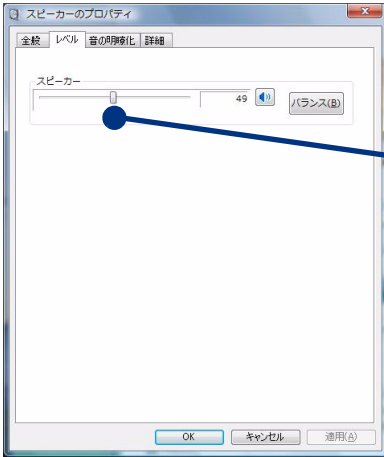
#### 2 [サウンド] をクリック

[サウンド] が開きます。

#### 3 [再生] タブで、調整したいスピーカを選んでダブルクリック

[スピーカのプロパティ] が表示されます。

- 4 [レベル]タブで、音量やバランスを調整したい箇所のスライダーをドラッグ



## ■ 録音レベルを調整する

- 1 [コントロールパネル]－[ハードウェアとサウンド]をクリック  
[ハードウェアとサウンド] が開きます。
- 2 [サウンド] をクリック  
[サウンド] が開きます。
- 3 [録音]タブで、調整したいオーディオを選んでダブルクリック  
オーディオのプロパティが表示されます。
- 4 [レベル]タブで、音量やバランスを調整したい箇所のスライダーをドラッグ

## 通知領域の [音量] アイコンで調整する

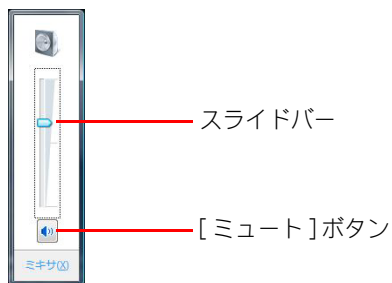
画面右下の通知領域に表示されている [音量] アイコンで、音量を調整することができます。

**参照** → 通知領域について → 『パソコン使用編』 1章の「デスクトップとは」

## ■ [音量] アイコンで調整する

- 1 通知領域の  [音量] アイコンをクリック  
[音量] を調整するスライダーが表示されます。

## 2 スライダーを上下にドラッグして、音量を調整する



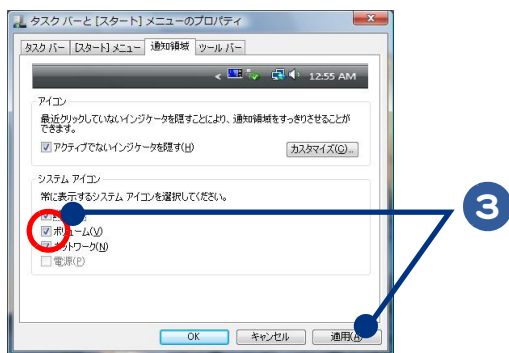
**※ヒント** ● [ミュート] ボタンをクリックすると、消音状態(🔇)になり、音が出ません。

## ■ 通知領域に[音量]アイコンが表示されていないときは

1 [コントロールパネル]－[デスクトップのカスタマイズ]をクリック  
[デスクトップのカスタマイズ]が開きます。

2 [タスクバーと[スタート]メニュー]をクリック  
[タスクバーと[スタート]メニュー]が開きます。

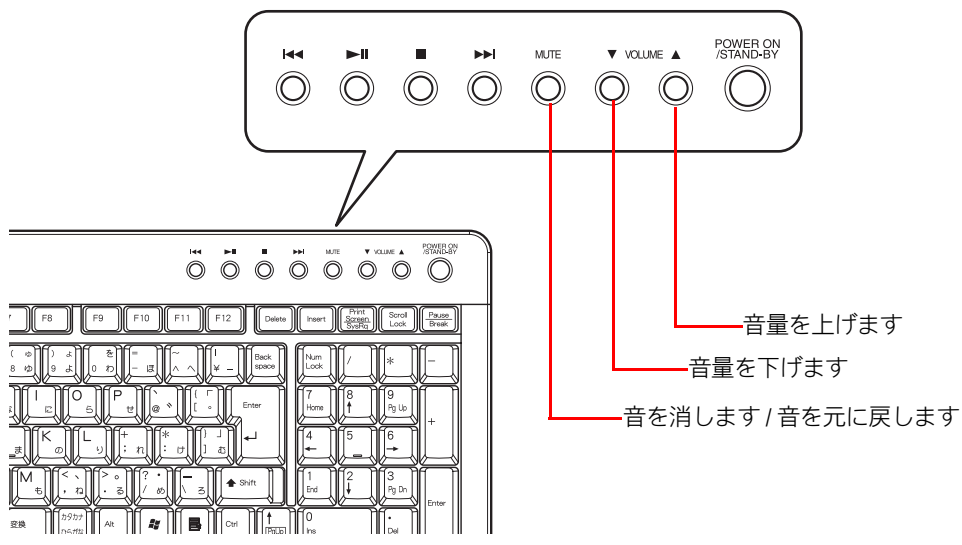
3 [通知領域]タブで、[システムアイコン]の[ボリューム]にチェックを付け、  
[適用]ボタンをクリック



4 [OK] ボタンをクリック

## キーボードのキーを使って調整する

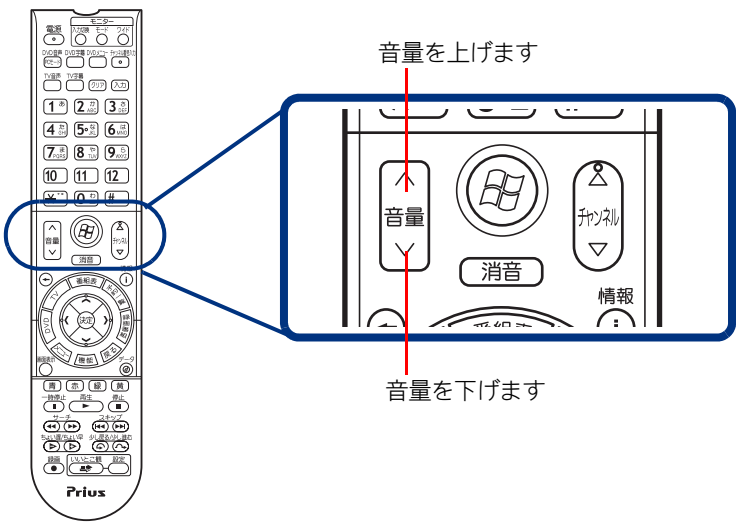
キーボードの [▲] キー、[▼] キーを押しても、音量を調整できます。[MUTE] キーを押すと、音を消したり、もう一度押すと元に戻せます。(通知領域の[音量]アイコンが変化します。)



## リモコンを使って調整する

リモコンの[音量]ボタンを押して、適切な音量に調整できます。

- **※ヒント** リモコンの[音量]ボタンは、Windows の音量を調整しています。
- 機種によってはリモコンは添付されません。詳しくは、同梱品一覧表で確認してください。



# ワンタッチキーを設定する

キーボードのワンタッチキーを押すと、設定したアプリケーションが起動します。ここでは、設定の方法を説明します。ご購入時は、次のアプリケーションが起動するように設定されています。必要に応じて変更してください。

## 標準の設定

[INTERNET] キー	: Internet Explorer
[MAIL] キー	: Microsoft® Office Outlook® 2007
[P1] キー	: CyberSupport (サイバーサポート)
[P2] キー	: Prius で楽しもう!

- ※ヒント**
- 再セットアップを行うと、[MAIL] キーは[Windows メール]に、[P1] キーは[なし]に設定されます。
  - Office Personal 2007 が添付されないモデルでは、[MAIL] キーはWindows メールになります。

設定の変更には、次の方法があります。

- ・ 設定の方法
- ・ 表示設定

## 設定の方法

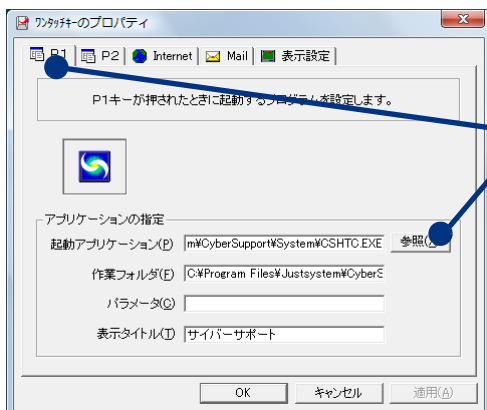
ここでは、[P1] キーに Windows フォトギャラリーを割り付ける場合を例に説明します。

### 1 通知領域の アイコンをダブルクリックするか、アイコンを右クリックし、メニューから [キーボードの設定] を選択する

[ワンタッチキーのプロパティ] が表示されます。

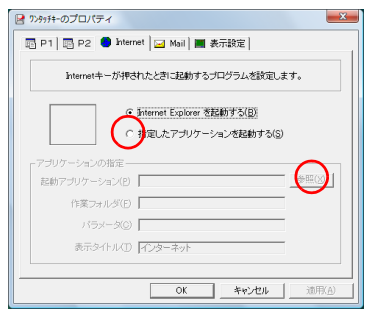
**参照** → 通知領域について → 『パソコン使用編』 1章の「デスクトップとは」

### 2 [P1] タブをクリックし、[参照] ボタンをクリック



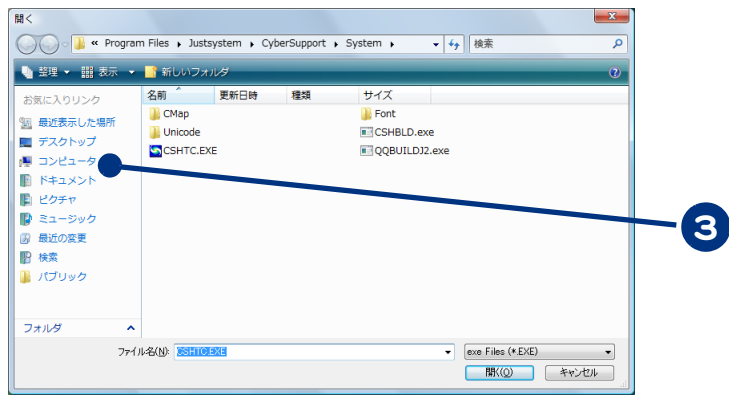


- **※ヒント** [Internet] タブや [Mail] タブの場合は、[指定したアプリケーションを起動する] をクリックして選択してから、[参照] ボタンをクリックします。

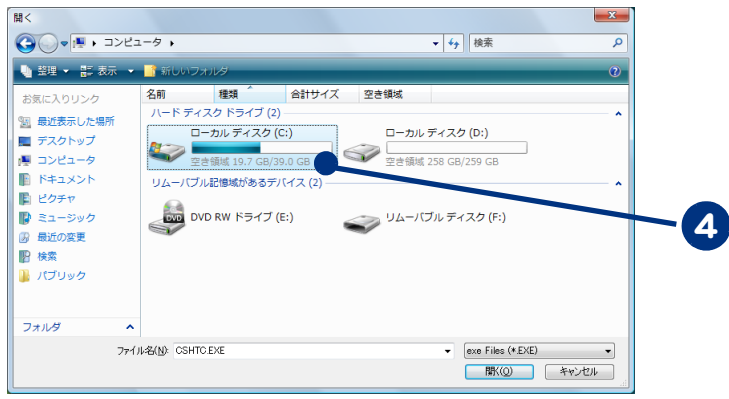


- **※ヒント** [INTERNET] キーを標準に戻す場合は、次のようにして手順 6 に進みます。  
[Internet] タブで [Internet Explorer を起動する] をクリックします。
- 再セットアップのあとなどで [MAIL] キーを Windows メールから Outlook に設定し直す場合は、次のようにして手順 6 に進みます。  
[Mail] タブをクリックし、[指定したアプリケーションを起動する] をクリックしてチェックを付け、[参照] ボタンをクリックする。手順 3、4 を行い、[Program Files] - [Microsoft Office] - [Office12] - [Outlook.exe] を選択する。

### 3 [コンピュータ] をクリック



### 4 [ローカルディスク (C:)] をダブルクリック



- 5** 割り付けたいアプリケーションのプログラムを選択する。  
例えば、Windows Photo Gallery を割り付ける場合は、[ローカルディスク] – [Program Files] – [Windows Photo Gallery] の順にダブルクリックし、Windows PhotoGallery.exe をダブルクリック

[ワンタッチキーのプロパティ] に戻り、[起動アプリケーション]、[作業フォルダ] が設定されます。

- 6** 必要に応じて、[パラメータ] に、アプリケーション起動時のパラメーターを入力する。省略してもよい

**※ヒント** ●パラメーターの設定詳細については、各アプリケーションのマニュアルおよびヘルプファイルをご参照ください。

- 7** [表示タイトル] にスペース以外の文字を入力する

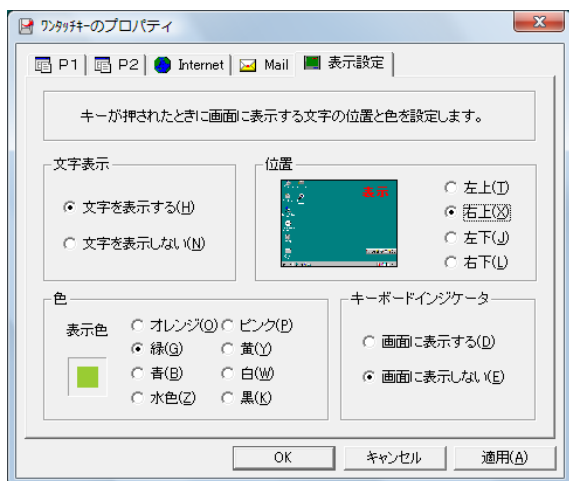
**※ヒント** ●ワンタッチキーが押されたとき、ディスプレイに表示させるタイトルです。通常アプリケーションを選択すると、そのアプリケーション名が自動的に入力されます。

- 8** [OK] ボタンをクリック

[P1] キーにアプリケーションが割り付けられます。

## 表示設定

[ワンタッチキーのプロパティ] の [表示設定] タブをクリックすると、[⏪]、[▶/||]、[■]、[▶▶]、[MUTE]、[▼VOLUME▲] キー以外のワンタッチキーが押されたときの表示の設定ができます。ディスプレイに表示する文字の位置、色を設定します。キーボードインジケータ [Num]、[Caps]、[Scroll]、[Bat] の画面表示有無の設定もできます。



# キーボードの電池容量の確認

ワイヤレスキーボードは、Windows の画面で電池の容量を確認できます。ここでは確認方法を説明します。

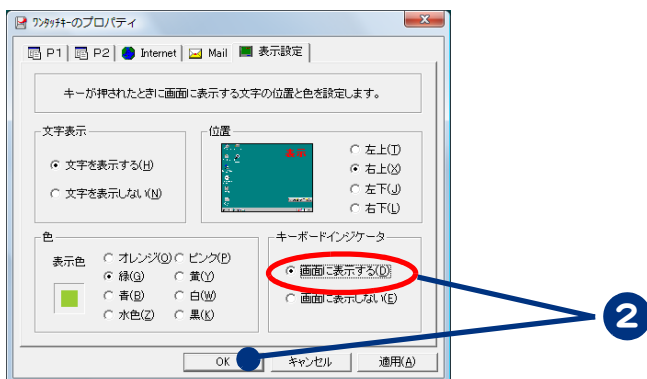
## キーボードの電池容量を確認する

- 1 通知領域の  アイコンをダブルクリックするか、アイコンを右クリックし、メニューから **【キーボードの設定】** を選択する

[ワンタッチキーのプロパティ] が表示されます。

**参照** → 通知領域について → 『パソコン使用編』 1章の「デスクトップとは」

- 2 **【表示設定】** タブをクリックし、**【画面に表示する】** を選択し **[OK]** ボタンをクリック



キーボードインジケータが画面右下に表示されます。

- 3 **キーボードの操作中に [Bat] の色を確認する**

キーボードの電池容量が不足している場合は [Bat] が赤く点灯するので電池を交換します。



電池容量が十分な場合は、点灯しない  
電池容量が不足している場合は、赤く点灯する

**※ ヒント** ● 電池容量が十分な場合は、点灯しません。





# 2

## 2章 消費電力を節約する

この章では、パソコンの消費電力を節約する方法について説明します。

- >> ・ 節電機能の種類 (P.22)
- >> ・ 節電機能を設定する (P.23)
- >> ・ 節電状態から復帰する (P.28)

# 節電機能の種類

ディスプレイやHDD、CPUの働きを一時的に停止させることで、消費電力を節約できます。この機能を節電機能といいます。節約している状態を節電状態と呼びます。節電機能には、次の種類があります。

	機能	内容	電源ランプの状態
パソコン全体の節電	スリープ状態	・現在の使用状況をすべてメモリーに保存する ・CPUへの電源供給を一時的に停止する ・接続した周辺機器への供給電力を減らす ・ディスプレイを消す ・HDDのモーターを停止する	オレンジ色に点滅
	休止状態	・現在の使用状況をHDDに保存する	オレンジ色に点灯
ディスプレイの節電		・ディスプレイを消す	緑色に点灯
HDDの節電		・HDDのモーターを停止する	

- 重要**
- アプリケーションによっては使用中に節電機能にならなったり、節電機能が動くまでに時間がかかることがあります。
  - ディスプレイの節電やスリープなど、節電機能とDirect3Dスクリーンセーバーを組み合わせで使用した場合、節電状態になったときにパソコンが動作しなくなる場合があります。このような場合にはスクリーンセーバーを別のものに変更するか、節電機能の設定を変更してください。
  - デジタルビデオなどのIEEE1394機器を使用中にスリープに入ると、節電状態からの復帰後、周辺機器が正常に動作しなくなる場合があります。IEEE1394機器を使用する場合には、スリープ、休止状態の設定を[なし]にしてください。

# 節電機能を設定する

パソコンの消費電力を自動で節電したり、特定のボタンを押してすぐに節電したりすることができます。ここでは、その設定方法を説明します。

- ・ 節電機能を使わないようにするとき
- ・ 自動で節電する
- ・ すぐに節電する

## 節電機能を使わないようにするとき

次のときは、節電状態にならないようにしてください。これらの機能やプログラムでデータを扱っている最中に節電機能が働くと、データが失われることがあります。

- ・ 再セットアップ中
- ・ システムやアプリケーションの起動中
- ・ ディスク（HDD、FD、CD/DVD など）の読み書き中やフォーマット中
- ・ 通信カード、通信ソフトで節電機能の使用が制限されている場合
- ・ プリンターの印字中
- ・ 音楽または動画の再生中

**参照** → 節電機能を使わない操作について → 「自動で節電機能を使わないようにする」

## 自動で節電する

パソコンをしばらく操作しないでいると、自動で消費電力が節約されます。どのくらいの時間で節電されるかは、[コントロールパネル] の [電源オプション] で設定します。ご購入時の電源プランの設定は [工場出荷設定] になっています。

### 標準の状態

電源プラン	工場出荷設定	バランス	省電力	高パフォーマンス
HDD の電源を切る	30 分後	20 分後	20 分後	20 分後
スリープ状態になる	20 分後	60 分後	60 分後	設定なし
休止状態になる	180 分後	設定なし	設定なし	設定なし
ディスプレイの電源を切る	15 分後	20 分後	20 分後	20 分後

## ■ 時間を設定する

### 1 [コントロールパネル] - [システムとメンテナンス] をクリック

[システムとメンテナンス] が表示されます。

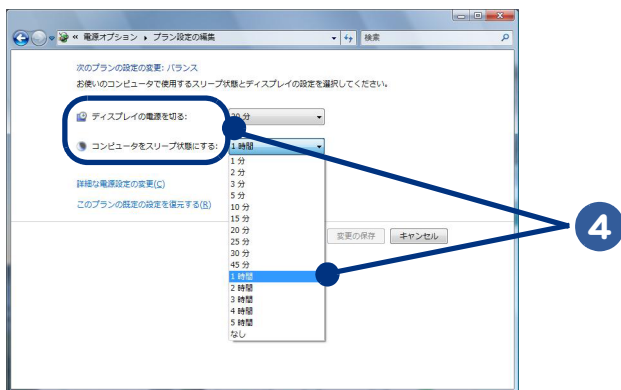
### 2 [電源オプション] をクリック

[電源オプション] が表示されます。

### 3 [電源プランの選択]で、変更したいプランの[プラン設定の変更]をクリック [プラン設定の編集]が表示されます。

**※ヒント** ● 表示されているプラン以外で新たにプランを作成する場合は、[電源オプション]左欄の[電源プランの作成]をクリックして設定してください。

### 4 各項目に、どのくらいパソコンを操作しないでいると節電状態になるかを設定する



**※ヒント** ● 表示以外の電源設定を変更する場合は、[詳細な電源設定の変更]をクリックして、各項目の設定を変更してください。

### 5 [変更の保存]ボタンをクリック

**重要** ● [コンピュータをスリープ状態にする]を設定しても、使用しているアプリケーションにより時間どおりに節電状態にならないことがあります。

**※ヒント** ● [ディスプレイの電源を切る]と[コンピュータをスリープ状態にする]を同じ時間に設定した場合、[ディスプレイの電源を切る]の設定時間が自動的に短くなります。

## ■ 自動で節電機能を使わないようにする

次の手順で、自動で節電機能が働かないように設定できます。

#### 1 「時間を設定する」の手順1～3を行う

[プラン設定の編集]が表示されます。

#### 2 [ディスプレイの電源を切る]を[なし]に設定する

#### 3 [変更の保存]ボタンをクリック

[ディスプレイの電源を切る]を[なし]に設定すると、[コンピュータをスリープ状態にする]も自動的に[なし]に設定されます。



## すぐに節電する

パソコンから離れるときなどに、消費電力を節約できます。  
すぐに節電するには、次の方法があります。

- ・ Windows で節電する
- ・ 電源スイッチで節電する

**重要** ● 音声や動画ファイルの再生中は、ここで説明する方法は行わないでください。節電状態から復帰したとき、正しく音声や動画ファイルを再生できないことがあります。

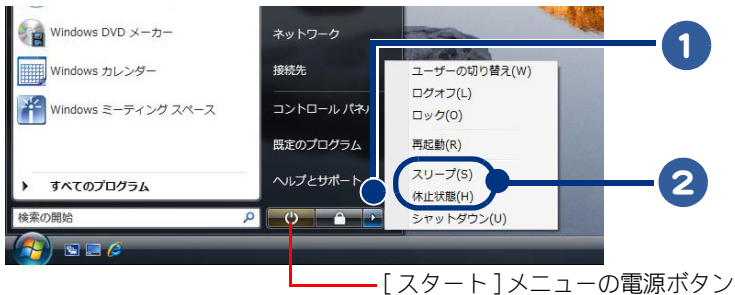
### Windows で節電する

#### 1 [スタート]－[ロック]ボタン横の[矢印]ボタンをクリック

シャットダウンオプションが表示されます。

#### 2 [スリープ]または、[休止状態]をクリック

スリープ状態または、休止状態になります。



- ※ ヒント**
- [スタート]メニューの電源ボタンを押しても、スリープ状態にすることができます。
  - 工場出荷時の状態では、[休止状態]は表示されません。
  - [休止状態]を表示させるときは、次の手順で行ってください。
    1. [電源オプション]の[プラン設定の変更]－[詳細な電源設定の変更]をクリック
    2. [スリープ]－[ハイブリッドスリープを許可する]をダブルクリック
    3. [設定]を[オフ]に設定

## ■ 電源スイッチで節電する

電源スイッチの設定を変えると、パソコンの電源スイッチを押したときにスリープまたは、休止状態にすることができます。

この設定は、[コントロール パネル]の[電源オプション]で行います。

### 標準の状態

- ・電源スイッチを 4 秒未満押したとき : シャットダウン

**※ ヒント** ● [シャットダウン]は、[終了オプション] から Windows を終了するのと同様に、4 秒未満電源スイッチを押すことで電源を切る機能です。

### 設定の変更方法

#### 1 [コントロール パネル]－[システムとメンテナンス]をクリック

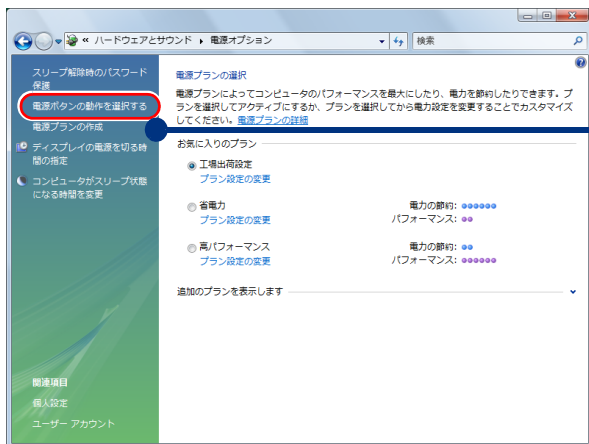
[システムとメンテナンス]が表示されます。

#### 2 [電源オプション]をクリック

[電源オプション]が表示されます。

#### 3 [電源オプション]左欄の[電源ボタンの動作を選択する]をクリック

[システム設定]が表示されます。

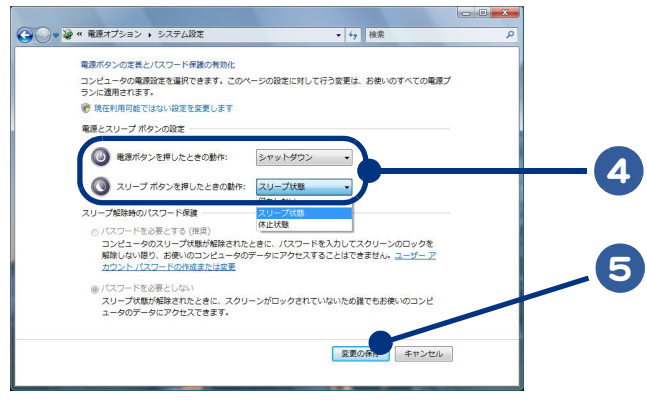


#### 4 [電源とスリープボタンの設定]で、各項目を[スリープ状態]または[休止状態]に設定する

- ・電源ボタンを押したときの動作
- ・スリープボタンを押したときの動作



## 5 [変更の保存] ボタンをクリック



- 重要**
- [スリープ]にするとときは、電源ランプがオレンジ色に点滅するまでキーボードのキーを押したり、マウスを動かさないでください。復帰したときに、キーボードやマウスが動作しなくなることがあります。
  - [電源ボタンを押したときの動作]で設定した内容は、次の動作に反映されます。
    - ・パソコンの電源スイッチを4秒未満押ししたとき
    - ・キーボードの[POWER]キーを押したとき
  - [スリープボタンを押したときの動作]で決定した内容は、次の動作に反映されます。
    - ・リモコンの[電源]ボタンを押したとき

# 節電状態から復帰する

節電状態から復帰させるには、次の方法があります。

## ディスプレイの節電状態からの復帰

- ・ キーボードのいずれかのキーを押す
- ・ マウスを操作する

## HDD の節電状態からの復帰

- ・ ファイルを開くなど、HDD にアクセスする操作を行う

## スリープ、休止状態からの復帰

- ・ パソコンの電源スイッチを押す
- ・ キーボードの [POWER] キーを押す



- パソコンの電源スイッチは4秒以上押さないでください。電源が強制的に切れます。
- 節電状態から復帰させるときは、20秒以上時間をおいてください。20秒未満で復帰させると、キーボードやマウスが正しく動かないことがあります。
- スリープ状態中にキー入力を行うと、入力したキーが復帰後に有効になることがあります。

# 3

## 3章 パソコンを拡張する

この章では、周辺機器の接続方法と使用方法を説明します。

- >> ・ 周辺機器接続時に必要な設定 (P.30)
- >> ・ USB 機器を接続する (P.31)
- >> ・ IEEE1394 機器を接続する (P.36)
- >> ・ LAN を接続する (P.37)
- >> ・ メモリーカードを使う (P.38)
- >> ・ ヘッドホン、マイクを接続する (P.41)
- >> ・ 光デジタルオーディオ機器を接続する (P.42)
- >> ・ その他の周辺機器を接続する (P.43)

# 周辺機器接続時に必要な設定

ここでは、周辺機器を接続したときに必要な設定とその参照先をまとめてあります。周辺機器に付属のマニュアルを参照し、必要に応じて設定してください。

接続した周辺機器	参照先
USB(Universal Serial Bus) 機器	USB 機器付属のマニュアル ・「USB 機器を接続する」
IEEE1394 機器	IEEE1394 機器付属のマニュアル ・「IEEE1394 機器を接続する」
LAN	・「LAN を接続する」
SD メモリーカード	SD メモリーカード付属のマニュアル ・「メモリーカードを使う」
メモリースティック	メモリースティック付属のマニュアル ・「メモリーカードを使う」
xD- ピクチャーカード	xD- ピクチャーカード付属のマニュアル ・「メモリーカードを使う」
ステレオ、マイク、 スピーカー、ヘッドホン	・「ヘッドホン、マイクを接続する」
光デジタルオーディオ機器	光デジタルオーディオ機器付属のマニュアル ・「光デジタルオーディオ機器を接続する」
メモリーボード	・「 <b>【設置と配線編】</b> 2 章の「メモリーボードを取り付ける」

**※ ヒント** ● 周辺機器の取り扱いについては、各メーカーにお問い合わせください。

## 周辺機器と必要なケーブル類

周辺機器を購入しても、ケーブル類が付属していないことがあります。ここでは、周辺機器と必要なケーブル類についてまとめています。

周辺機器	必要なケーブル類
プリンター	プリンターケーブル (USB ケーブル)
スキャナー	スキャナーケーブル (USB ケーブル)
デジタルビデオカメラ (IEEE1394 機器)	IEEE1394 ケーブル (4 ピン)
スマートメディア コンパクトフラッシュ	アダプター (USB)
メモリースティック Duo メモリースティック PRO デュオ	メモリースティック Duo アダプター
miniSD カード	miniSD カードアダプター

**▲ 重要** ● USB2.0 対応の機器をご使用の場合は、USB2.0 対応の USB ケーブルをご使用ください。

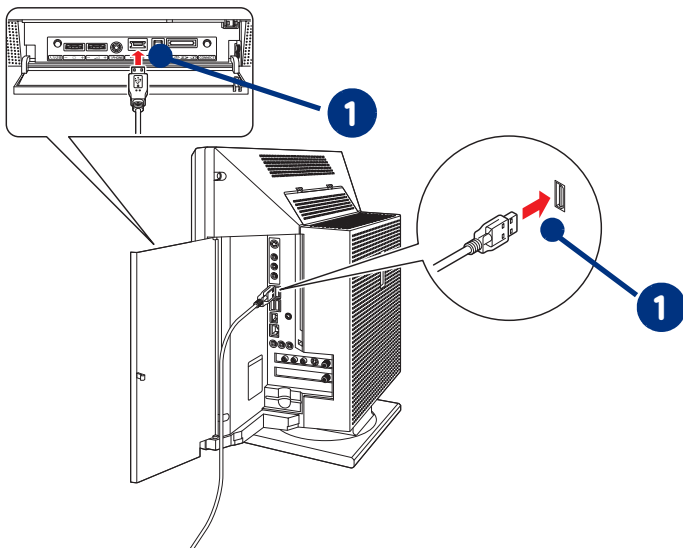
# USB 機器を接続する

このパソコンには、FDD やプリンターなどの USB(Universal Serial Bus) 機器を取り付けることができます。ここでは、接続方法の一例を説明します。詳しくは、USB 機器のマニュアルをご参照ください。

- ・ 取り付け手順
- ・ 取り外し手順
- ・ USB プリンターを使用する方法
- ・ プリンタードライバーの削除方法
- ・ 使用するプリンターの選択

## 取り付け手順

### 1 USB ケーブルを前面または側面の USB コネクターに接続する



#### ※ ヒント

- 接続しても USB 機器が動作しない場合は、パソコンおよび USB 機器の電源をすべて切ってから接続し直し、USB 機器、パソコンの順で再起動してください。
- USB コネクターは 5 つあります。どのコネクターに接続しても動作は同じです。

#### ▲ 重要

- ケーブルは、正しい向き、正しい角度で差し込んで接続してください。ケーブルがきちんと差し込まれていないと、動作しなかったり、誤動作の原因になります。
- ケーブルの抜き差しをする場合は、プラグ部分を持って、5 秒以上の間隔をあけて行ってください。USB 機器が認識されないことがあります。
- USB2.0 対応の機器をご使用の場合は、USB2.0 対応の USB ケーブルをご使用ください。
- USB 機器によっては、[ハードウェアの安全な取り外し]を行わないと安全に取り外せないことがあります。
- USB ポートの電源供給能力は、1 ポートあたり最大 500mA です。500mA を超える USB 機器は使用できません。接続しないでください。
- 地上デジタル放送対応モデルの場合は、著作権保護機能のため USB-VGA 機器と「Prius Navistation5」の同時使用はできません。

#### 参照 →

[ハードウェアの安全な取り外し]について → 「取り外し手順」

## 取り外し手順

USB 機器や IEEE1394 機器などは、次の手順で [ハードウェアの安全な取り外し] を行ってください。ここでは、USB 機器の取り外し手順を例に説明します。

**重要** ● 次の手順で取り出さないと、パソコンの情報が壊れることがあります。

**1** USB 機器にアクセスを行ったアプリケーションを終了させるか、ファイルコピー時に表示されるプログレスバーなどで、アクセスが完了したことを確認する

**2** Windows の通知領域の  アイコンを右クリックし、[ハードウェアの安全な取り外し] をクリック

[ハードウェアの安全な取り外し] が表示されます。

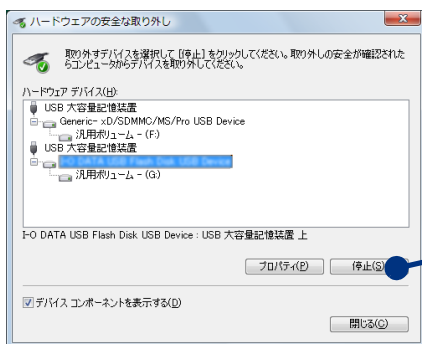
**参照** → 通知領域について → 『パソコン使用編』 1 章の「デスクトップとは」

**3** [デバイス コンポーネントを表示する] にチェックを付ける

デバイス コンポーネントの名前が表示されます。

**4** 取り外す USB 機器をクリックして選択し、[停止] ボタンをクリック

[ハードウェアデバイスの停止] が表示されます。



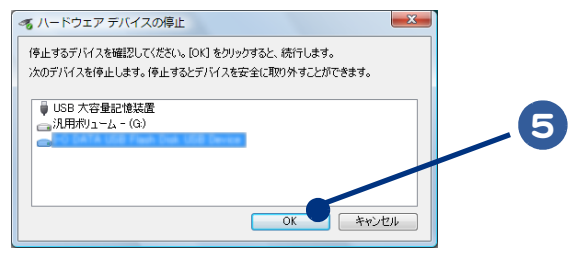
**重要** ● [USB 大容量記憶装置デバイス] として表示される [Generic- xD/SD/MMC/MS/Pro USB Device] のデバイスコンポーネントは取り外さないでください。パソコン内部で USB 接続されているメモリーカードスロットが使用できなくなります。





### 5 [OK] ボタンをクリック

[このデバイスはコンピュータから安全に取り外すことができます。]と表示されます。



### 6 [OK] ボタンをクリック

### 7 USB 機器を取り外す

## USB プリンターを使用する方法

USB プリンターを使用するには、ドライバーのインストールが必要です。プリンタードライバーのインストールについては、プリンターに付属のマニュアルをご参照ください。

**参照** → ・プリンターの選択について → 「使用するプリンターの選択」

## プリンタードライバーの削除方法

パソコンからプリンターを取り外し、Windows からプリンタードライバーを削除するときは、次のようにします。お使いのプリンターにドライバーを削除（アンインストール）するユーティリティがある場合は、そちらをお使いください。次の説明は一般的な削除方法です。

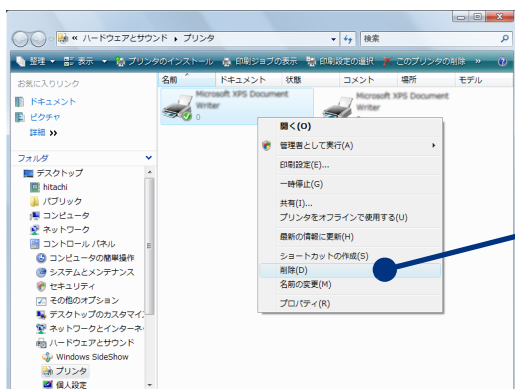
### 1 [コントロールパネル] - [ハードウェアとサウンド] をクリック

[ハードウェアとサウンド]が表示されます。

### 2 [プリンタ] をクリック

[プリンタ]が表示されます。

### 3 削除するプリンターのアイコンを右クリックし、[削除] をクリック



### 4 メッセージが表示されたら、[はい] ボタン (または [OK] ボタン) を何度かクリック

**※ヒント** ● 削除したプリンターが通常使うプリンターに設定されていたときは、通常使うプリンターを変更するメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてください。

## 使用するプリンターの選択

通常使うプリンターを設定する方法と、一時的に別のプリンターに切り替えて印刷する方法を説明します。

### 通常使うプリンターを設定する

#### 1 [コントロールパネル] – [ハードウェアとサウンド] をクリック

[ハードウェアとサウンド] が表示されます。

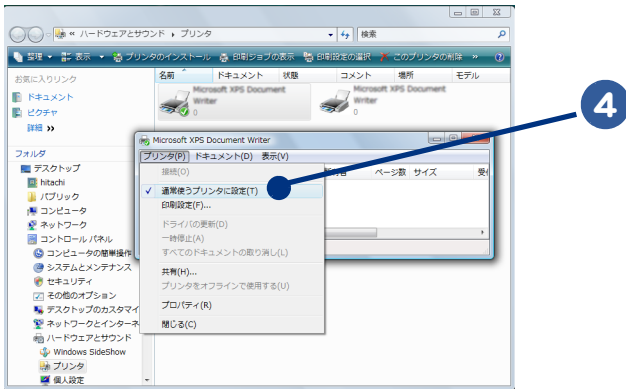
#### 2 [プリンタ] をクリック

[プリンタ] が表示されます。

#### 3 通常使うプリンターのアイコンをダブルクリック

[印刷ジョブの表示] が表示されます。

## 4 [プリンタ] – [通常使うプリンタに設定] をクリック



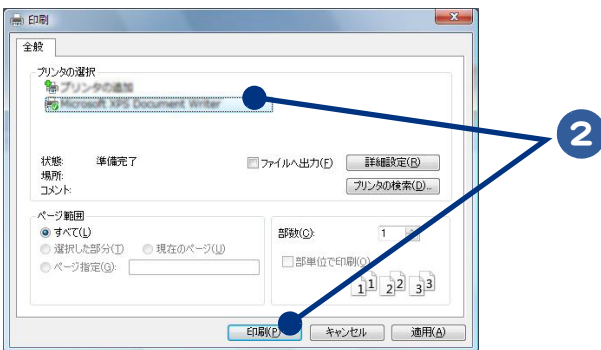
以降、標準で印刷するプリンターは設定したプリンターになります。

### 使用するプリンターを一時的に切り替える

## 1 印刷を行うアプリケーションの [ファイル] メニュー – [印刷] をクリック

[印刷] が表示されます。

## 2 [プリンタの選択] から、一時的に使用するプリンターを選び、[印刷] ボタンをクリック



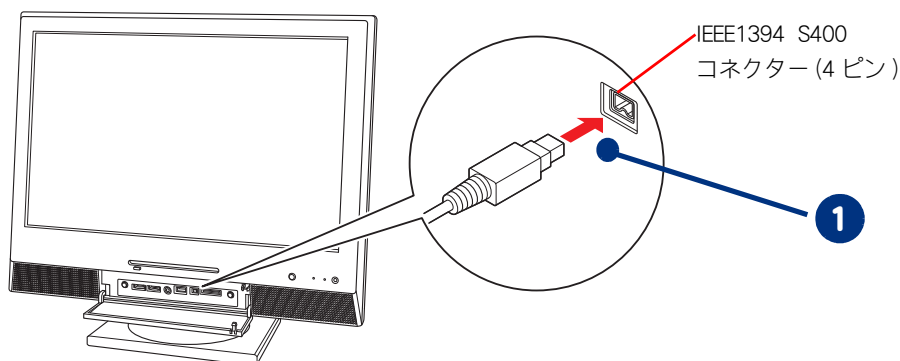
**※ヒント** ● 画面は一例です。

# IEEE1394 機器を接続する

このパソコンには、デジタルビデオカメラなどの IEEE1394 機器を取り付けることができます。ここでは、接続方法の一例を説明します。詳しくは、IEEE1394 機器のマニュアルをご参照ください。

## 1 IEEE1394 ケーブル（市販品）を前面の IEEE1394 S400 コネクター（4 ピン）に接続する

**※ヒント** ● コネクターは 4 ピンタイプです。



- ▲重要** ● ケーブルは、正しい向き、正しい角度で差し込んで接続してください。ケーブルがきちんと差し込まれていないと、動作しなかったり、誤動作の原因になります。
- ケーブルの抜き差しは、プラグ部分を持って行ってください。
  - IEEE1394 機器によっては、電源を入れたまま抜き差しができない機器があります。

**参照** → 詳細について→ IEEE1394 機器付属のマニュアル

## 2 IEEE1394 ケーブルのもう一方のコネクターを、デジタルビデオカメラなどの IEEE1394 コネクターに接続する

**※ヒント** ● 接続しても IEEE1394 機器が動作しない場合は、パソコンおよび IEEE1394 機器の電源をすべて切ってから接続し直し、IEEE1394 機器、パソコンの順で再起動してください。

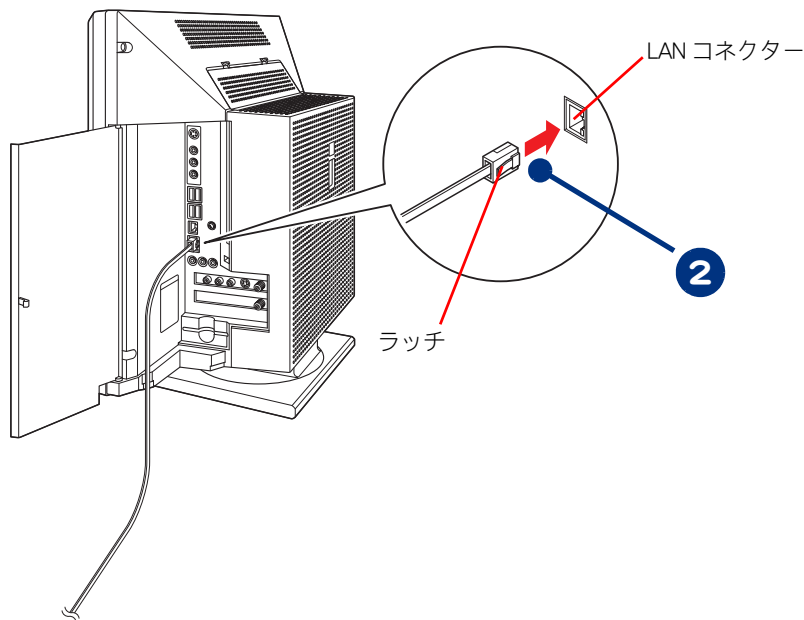
- ▲重要** ● IEEE1394 機器によっては[ハードウェアの安全な取り外し]を行わないと、安全に取り外せないことがあります。

**参照** → [ハードウェアの安全な取り外し]について→ 「USB 機器を接続する」の「取り外し手順」

# LAN を接続する

LAN ケーブルを接続して、LAN 通信を行うことができます。LAN ケーブルの接続方法を説明します。

- 1 パソコンの電源を切り、周辺機器が接続されている場合は、周辺機器の電源を切る
- 2 LAN ケーブル(市販品)を、パソコン側面の LAN コネクターに「カチッ」と音がするまで差し込む



- 重要**
- ケーブルは、正しい向き、正しい角度で差し込んで接続してください。ケーブルがきちんと差し込まれていないと、動作しなかったり、誤動作の原因になります。
  - ケーブルには脱落防止のラッチが付いています。ケーブルを抜く場合は、ラッチを押さえながら行ってください。ラッチを押さえずに無理に引き抜くと、LAN ケーブルの一部が断線したり、LAN コネクターを破損するなどのおそれがあります。
  - LAN 設定などの訪問サポートをご用意しております。有償サービスについては安心コールセンターにお問い合わせください。

**参照** → お問い合わせ先 → 『サポート＆サービス編』 1章の「困ったときのお問い合わせ先」

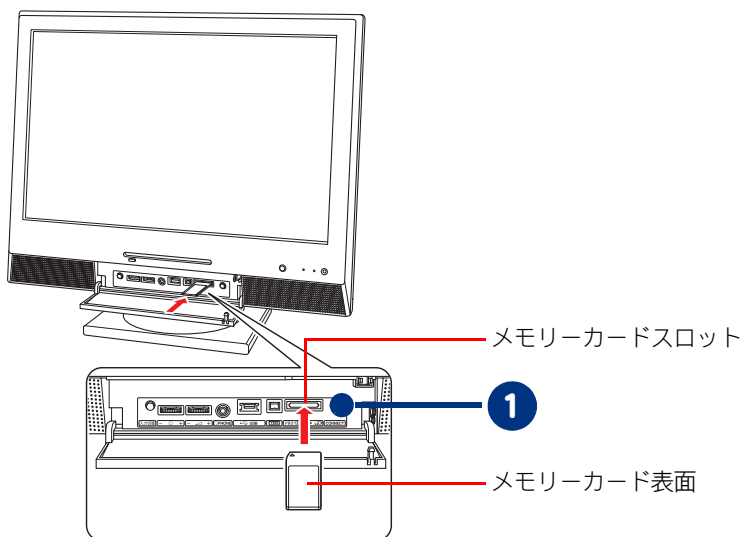
# メモリーカードを使う

このパソコンには、メモリーカードスロットが1つ用意されています。SDメモリーカードやメモリースティック、xD-ピクチャーカード（以下、メモリーカード）を取り付けることができます。メモリーカードを取り付けるときは、あらかじめ付属のマニュアルを読み、取り付け方法を理解した上で取り付けてください。

- ・ 取り付け手順
- ・ 取り外し手順

## 取り付け手順

- 1 メモリーカードの向きを確認して、メモリーカードスロットにメモリーカードを奥まで差し込む



- 重要**
- メモリーカードが正しく取り付けられたかご確認ください。確認方法については、メモリーカードに付属のマニュアルをご参照ください。
  - マルチメディアカード (MMC) は使用できません。
  - SDメモリーカード、メモリースティック、xD-ピクチャーカードの同時使用はできません。
  - 本機では、2GBまでのメモリースティックで動作確認を行っています。ただし、すべてのメモリースティックでの動作を保証するものではありません。
  - メモリースティックのマジックゲートには対応していません。マジックゲートは、ソニーが開発した著作権を保護する技術の総称です。
  - メモリースティック Duo およびメモリースティック PRO デュオ、miniSD を使うには、市販のアダプターが必要です。
  - 本機では、16MB～2GBのxD-ピクチャーカードで動作確認を行っています。ただし、すべてのxD-ピクチャーカードでの動作を保証するものではありません。
  - xD-ピクチャーカードは、Type H まで動作します。
  - SDメモリーカードの著作権保護機能には対応していません。

**※ヒント** ● メモリーカードが正常に認識しない場合は、一度取り出し、パソコンを再起動してから、入れ直してください。

**参照** → メモリーカードの取り外し手順 → 「取り外し手順」

# 取り外し手順

メモリーカードは、次の手順で取り外してください。ここでは、SDメモリーカードの取り外し手順を例に説明します。

- 重要**
- 次の手順で取り出さないと、カードやパソコンの情報が壊れることがあります。
  - メモリーカードを取り外すときは、[ハードウェアの安全な取り外し]を行わないでください。リムーバブルディスクのアイコンが消え、使用できなくなります。アイコンが消えて使用できなくなった場合は、パソコンを再起動してください。リムーバブルディスクが認識され、アイコンが表示されます。

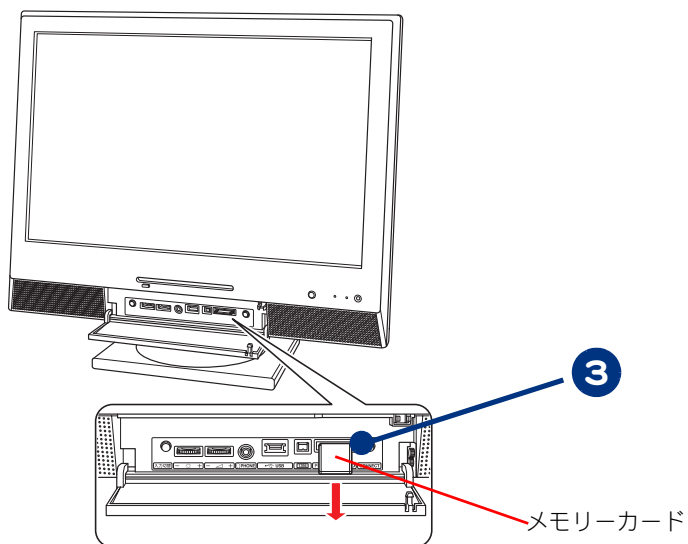
**1** メモリーカードにアクセスを行ったアプリケーションを終了させるか、ファイルコピー時に表示されるプログレスバーなどで、アクセスが完了したことを確認する

**2** [コンピュータ]のメモリーカードが挿入されているドライブアイコンを右クリックし、表示されたメニューから[取り出し]をクリック

- 重要**
- エラーメッセージが表示された場合は、しばらく待ってからもう一度[取り出し]を実行してください。



### 3 メモリーカードを、まっすぐ手前に引き抜く



#### ※ヒント

- メモリーカードを取り外すときは、力を加えずにまっすぐ手前に引き抜いてください。
- メモリーカードを取り外す際、メモリーカードの[書き込み禁止ノッチ]がずれることがあります。メモリーカード挿入時に、[書き込み禁止ノッチ]の位置をご確認ください。

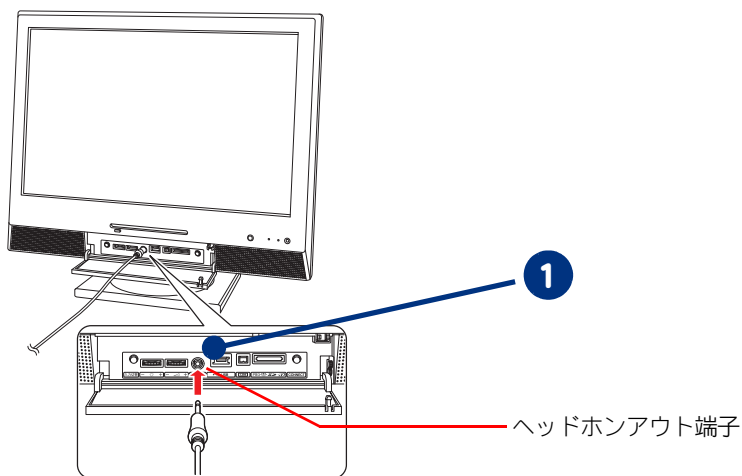


# ヘッドホン、マイクを接続する

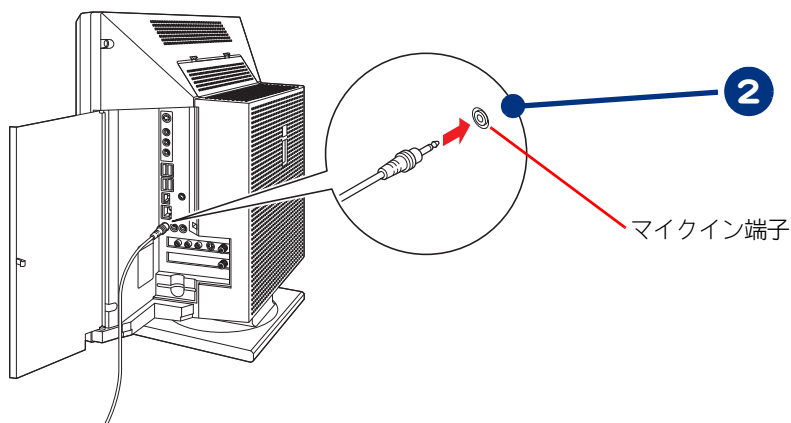
マイクを使って自分の声など外部の音声を録音し、パソコンに音声データとして保存することができます。ヘッドホンで、音声データを再生したり、ゲームソフトのBGMなども楽しめます。

## 接続方法

### 1 パソコン前面のヘッドホンアウト端子にヘッドホンを接続する



### 2 パソコン側面のマイクイン端子にマイクを接続する



**※ヒント** ● DOS/V 用として市販されているマイクをお使いください。



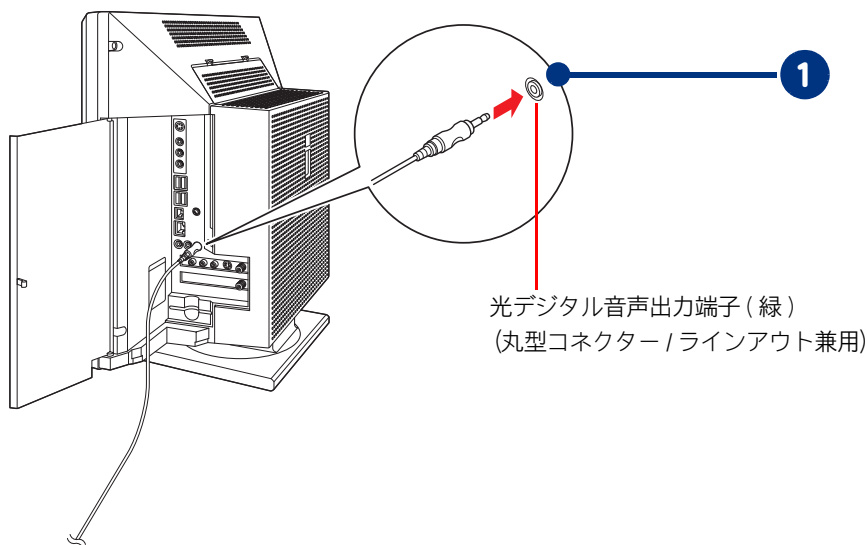
**注意** ・ヘッドホンやイヤホン使用時は、適度な音量でご使用ください。音量が大きすぎると難聴になるおそれがあります。

# 光デジタルオーディオ機器を接続する

このパソコンには、光デジタル入力可能なMDレコーダーなどの光デジタルオーディオ機器を接続することができます。さらに、光デジタル入力端子付きのサラウンドアンプなどを接続し、映画館で聴いているような音声で聴くこともできます。ここでは、接続方法の一例を説明します。詳しくは、光デジタルオーディオ機器のマニュアルをご参照ください。

## 1 光デジタルケーブル（市販品）を光デジタル音声出力端子に接続する

- ※ヒント** ● 光デジタルケーブルのプラグには、角型と丸型があります。パソコン側のコネクタは、丸型です。接続する機器の形状に合わせてケーブルをご購入ください。



- ※ヒント** ● 接続しても光デジタルオーディオ機器が動作しない場合は、パソコンおよび光デジタルオーディオ機器の電源をすべて切ってから接続し直し、光デジタルオーディオ機器、パソコンの順で再起動してください。
- 5.1ch サラウンドをお楽しみいただくには、5.1ch 対応の光デジタルオーディオ機器が必要です。また、DVD 再生ソフトの SPDIF 出力を ON にしてください。
  - DVD の音声を、光デジタル入力で MD レコーダーに録音する場合、SPDIF 出力を OFF にし、2 スピーカーで録音してください。
  - サンプリング周波数 96kHz に対応した、光デジタルオーディオ機器に接続できます。

- 重要** ● 光デジタル音声出力端子に録画可能な光デジタルオーディオ機器を接続しても、コンテンツによっては、著作権保護により録音できない場合があります。
- 光デジタルオーディオケーブルのコネクタが太い場合など、ケーブルのコネクタの形状によっては、コネクタが奥まで差し込めないことがあります。コネクタの直径が 10mm 以下のものをご使用ください。

- 注意** ● 光デジタル音声出力端子について  
光デジタル音声出力端子からの信号ケーブル先端部の赤い光を長時間見続けしないでください。眼を痛める原因になります。

# その他の周辺機器を接続する

通常、プラグアンドプレイ機能に対応している周辺機器を接続したときは、自動的に Windows が環境を設定します。プラグアンドプレイ機能に対応していない周辺機器を接続する場合は、[ハードウェアの追加ウィザード] を使って手動で環境を設定します。[ハードウェアの追加ウィザード] を使う前に、周辺機器に付属しているマニュアルをよくお読みください。そのマニュアルに操作手順が記載されている場合は、手順に従ってください。

- ※ヒント**
- メモリーの増設などでは、環境を設定する必要はありません。
  - 周辺機器の取り付け・取り外しについては、この章や周辺機器に付属のマニュアルをご参照ください。

- 1 パソコンの電源を切る
- 2 電源プラグをコンセントから抜き、周辺機器を接続する
- 3 必要に応じて、周辺機器の電源を入れる
- 4 パソコンの電源を入れる

- ※ヒント**
- USB 機器や IEEE1394 機器など、パソコンの電源が入ったまま接続できる周辺機器もあります。

- 5 [コントロールパネル] をクリックし、[コントロールパネル] 左欄の [クラシック表示] をクリック

画面が [クラシック表示] に切り換わります。

- 6 [ハードウェアの追加] アイコンをダブルクリック

[ハードウェアの追加ウィザード] が表示されます。

- 7 [次へ] - [次へ] ボタンをクリック

新しい周辺機器の検出が始まります。

しばらくすると、[ハードウェアの検出が完了し、インストールの準備ができました] と表示されます。

- ※ヒント**
- メッセージが表示されず、増設した周辺機器が見つからないときは、[次へ] ボタンをクリックし、周辺機器に付属のマニュアルを参照するなどして手動で設定してください。

- 8 [完了] ボタンをクリック

検出された周辺機器のドライバーがインストールされます。

# さくいん

## H

HDD の節電 22

## I

IEEE1394 機器 36  
[INTERNET] キー 16

## L

LAN 37

## M

[MAIL] キー 16

## P

[P1] キー 16  
[P2] キー 16

## S

SD メモリーカード 38

## U

USB(Universal Serial Bus) 31

## X

xD- ピクチャーカード 38

## え

映像モードについて 11

## お

音量 12  
[音量] ボタン 15

## か

画面の解像度、色の設定 8

## き

キーボードインジケータ 18  
キーボードの電池容量 19  
休止状態 22

## こ

個人設定 8

## し

周辺機器 30  
使用するプリンターの選択 34

## す

スリープ状態 22

## て

ディスプレイ 8  
ディスプレイの節電 22

## ひ

光デジタルオーディオ機器 42

## ふ

プリンタードライバーのインストール 33  
プリンタードライバーの削除方法 33

## へ

ヘッドホン 41

## ま

マイク 41

## も

[モード] ボタン 10

## り

リモコン 10

## わ

[ワイド] ボタン 10  
ワイド切換について 10  
ワンタッチキー 16

## 他社製品の登録商標および商標についてのお知らせ

このマニュアルにおいて説明されている各ソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティー契約のもとに供給されています。ソフトウェアおよびマニュアルは、そのソフトウェアライセンス契約に基づき同意書記載の管理責任者の管理のもとでのみ使用することができます。

それ以外の場合は該当ソフトウェア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。

- ・ Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corp. の登録商標です。
- ・ メモリースティック、マジックゲートは、ソニー株式会社の商標です。
- ・ xD- ピクチャーカードは、富士写真フイルム株式会社の商標です。
- ・ その他、各会社名、各製品名は、各社の商標または登録商標です。

---

# Prius 取扱説明書 パソコン応用編

初 版 2006 年 12 月

無断転載を禁止します。

---

---

 **株式会社 日立製作所**  
**ユビキタスシステム事業部**

〒 244-0817 神奈川県横浜市戸塚区吉田町 292 番地  
お問い合わせ先: 安心コールセンター 0120-885-596

---

© Hitachi, Ltd. 2006. All rights reserved.